第２章　文化振興に向けた現状と課題

１　芸術文化等を取り巻く国や県の動向

（１）文化芸術基本法

文化の必要性と芸術を取り巻く諸課題に取り組むため、国は、平成 13 年に「文化芸術振興基本法」を施行し、平成 27 年「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第４次基本方針）を閣議決定し、教育、福祉、まちづくり、観光・産業等幅広い分野との関連性を意識しながら、それら周辺領域への波及効果を視野に入れた文化芸術振興施策を推進しています。

こうした中、平成 29 年６月に「文化芸術振興基本法」が改正され、文化芸術そのものの振興に加え、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出されるさまざまな価値を、文化芸術の更なる発展、継承及び創造につなげていくことが盛り込まれ、法律名も「文化芸術基本法」と改められました。

（２）劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

平成 24 年には劇場、音楽堂等の活性化を図るため、劇場、音楽堂等の事業、関係者並びに国及び地方公共団体の役割、基本的施策等を定め、もって心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現並びに国際社会の調和ある発展を期するため、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（劇場法）が制定されました。

（３）東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催

「文化芸術立国中期プラン」(平成 26 年)等により、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、国は文化を活用したまちづくりの取り組みを進めています。

（４）静岡県文化振興基本条例・第４期ふじのくに文化振興基本計画

静岡県においても平成 18 年の「静岡県文化振興基本条例」をはじめ、平成 20 年に「静岡県文化振興基本計画」が制定され、平成 30 年３月には、「感性豊かな地域社会の形成」を基本目標に、第４期計画が策定され、国同様に文化振興の推進を図っています。

「文化芸術基本法」、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」では、地方公共団体にも、自主的かつ主体的に地域の特性に合った施策を策定、実施することが求められています 。

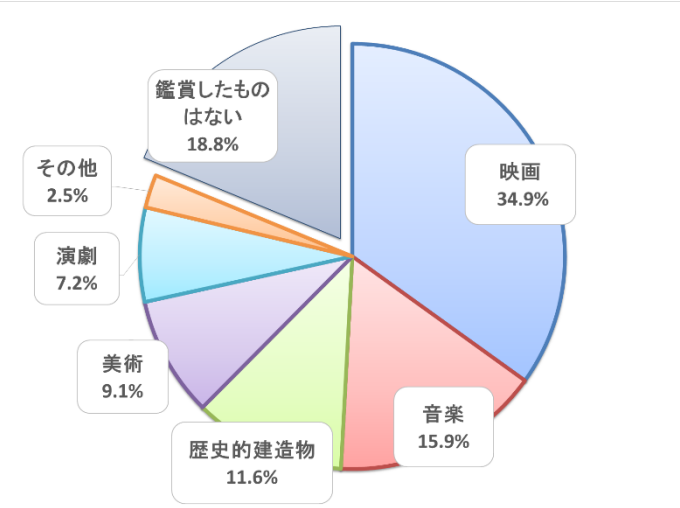
２　本市における文化に関する現状

「焼津市文化振興計画」を策定するにあたり、平成 30 年度に実施した本計画策定に係わるアンケートや文化団体へのインタビューを通して、現状の把握を行いました。

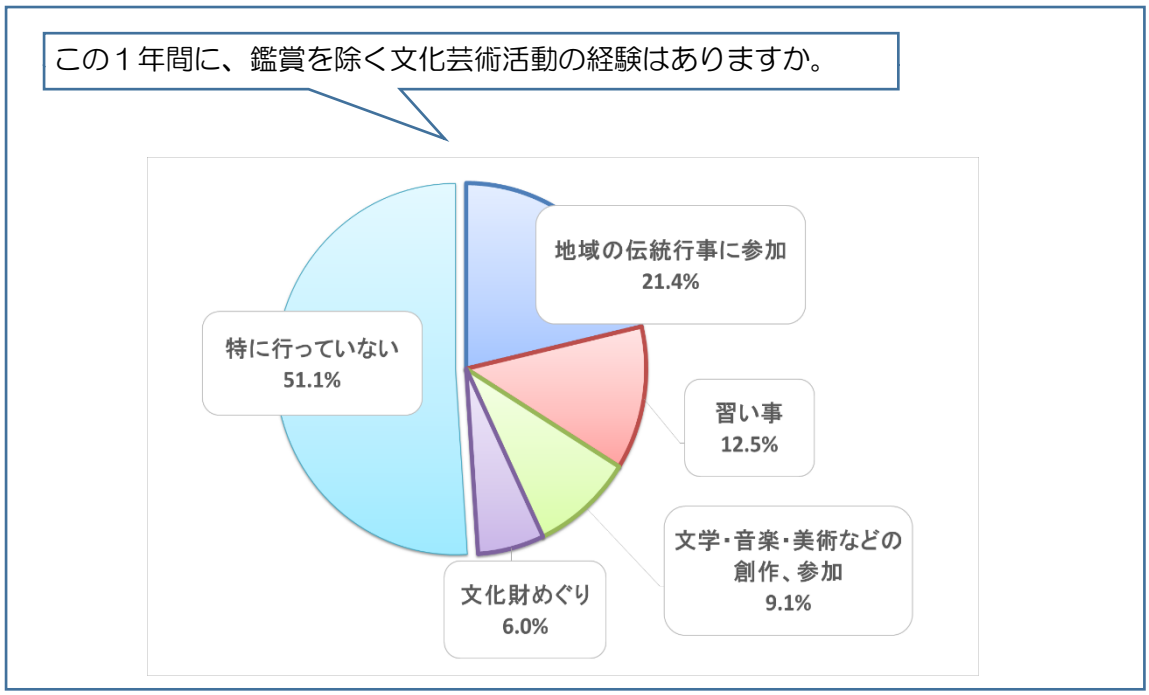
【この一年の文化活動の現状について】

① 文化芸術の鑑賞を行った市民は 81.2%

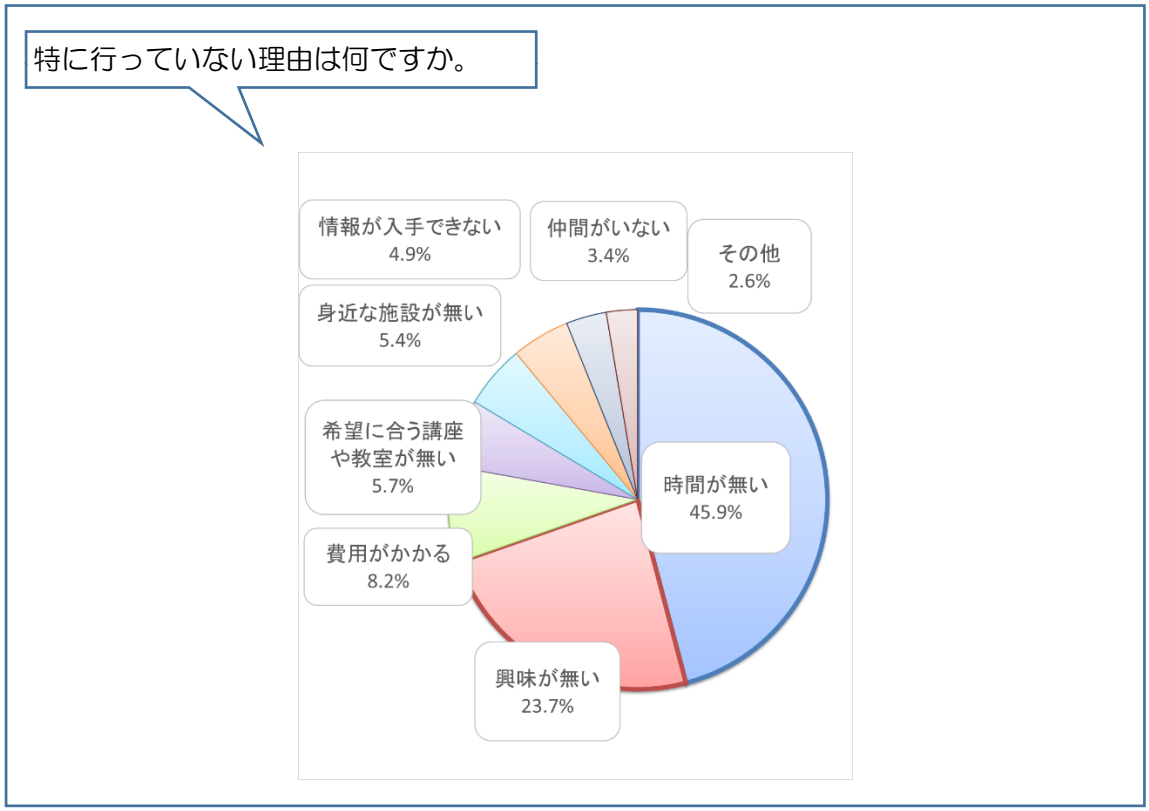
この１年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などに出向いて、直接鑑賞した文化芸術は何ですか。



② 鑑賞を除く文化芸術活動を行っている市民は 48.9%



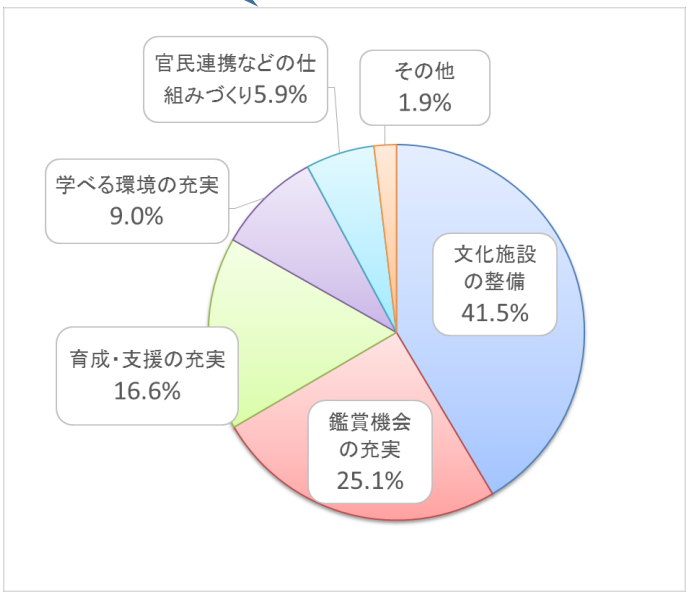
③ 活動をしなかった市民のうち、仕事や家事など時間的な余裕がないことを挙げる市民が最も多く約半数（45.9%）、文化活動に興味が無い市民が 23.7%



【文化活動を行う環境をよりよくするための取り組み】（上位３位）

① 利用しやすい文化施設の整備　41.5%
② 市民のニーズに応じたさまざまな鑑賞機会の充実　25.1%
③ 若手・担い手に対する育成・支援の充実　16.6%

文化芸術を行う環境をよりよくするためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。



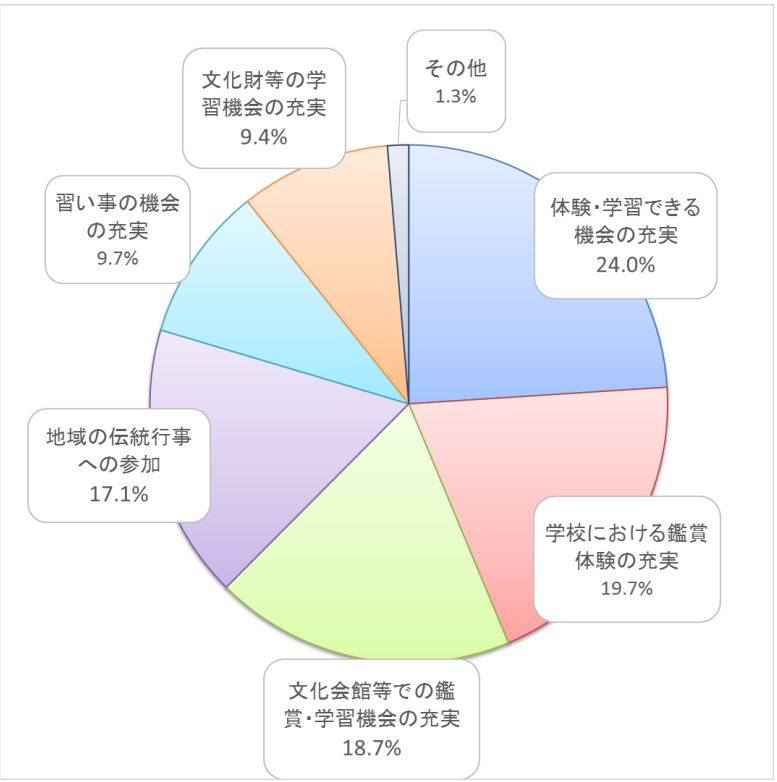
【文化団体のインタビューより】

① 発表の機会が欲しい。
② 練習や発表など会場の確保が難しい。
③ 文化活動を担う人材が減少し、活動を引き継ぐ担い手不足。
（地域に伝わる、伝統的な祭りや伝統芸能などの継承の点においても同様）

【子どもの文化芸術体験で重要だと思うこと】（上位３位）

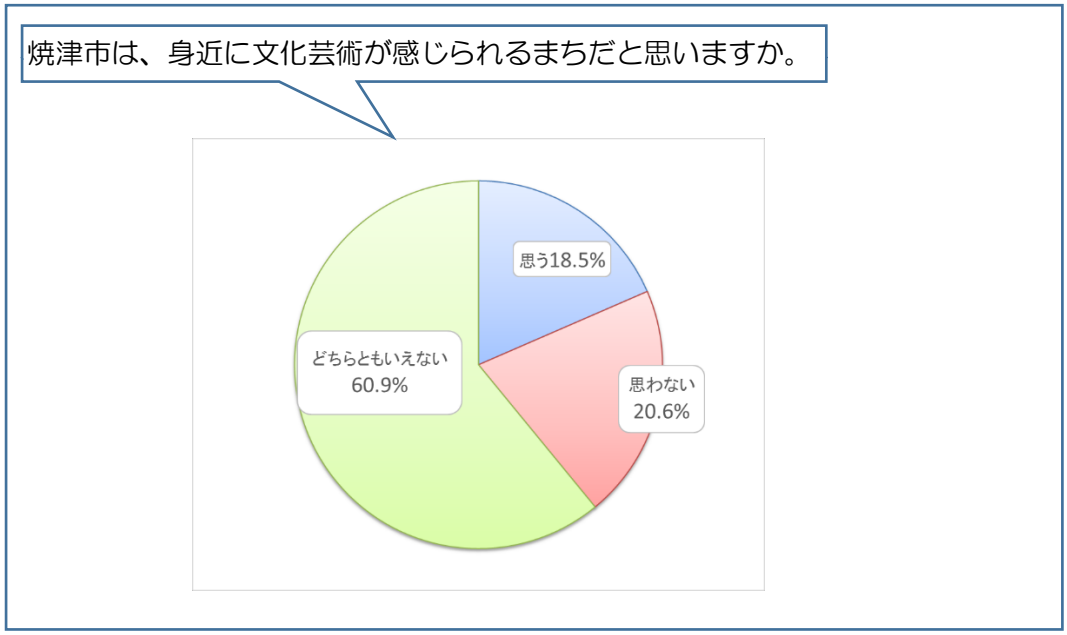
① 文化芸術活動の体験や学習機会の充実（24.0%）
② 学校における鑑賞体験の充実（19.7%）
③ 文化会館などでの鑑賞機会や学習機会の充実（18.7%）

子どもの文化芸術体験で、重要な事項は何だと思いますか　３つ以内で選択してください。

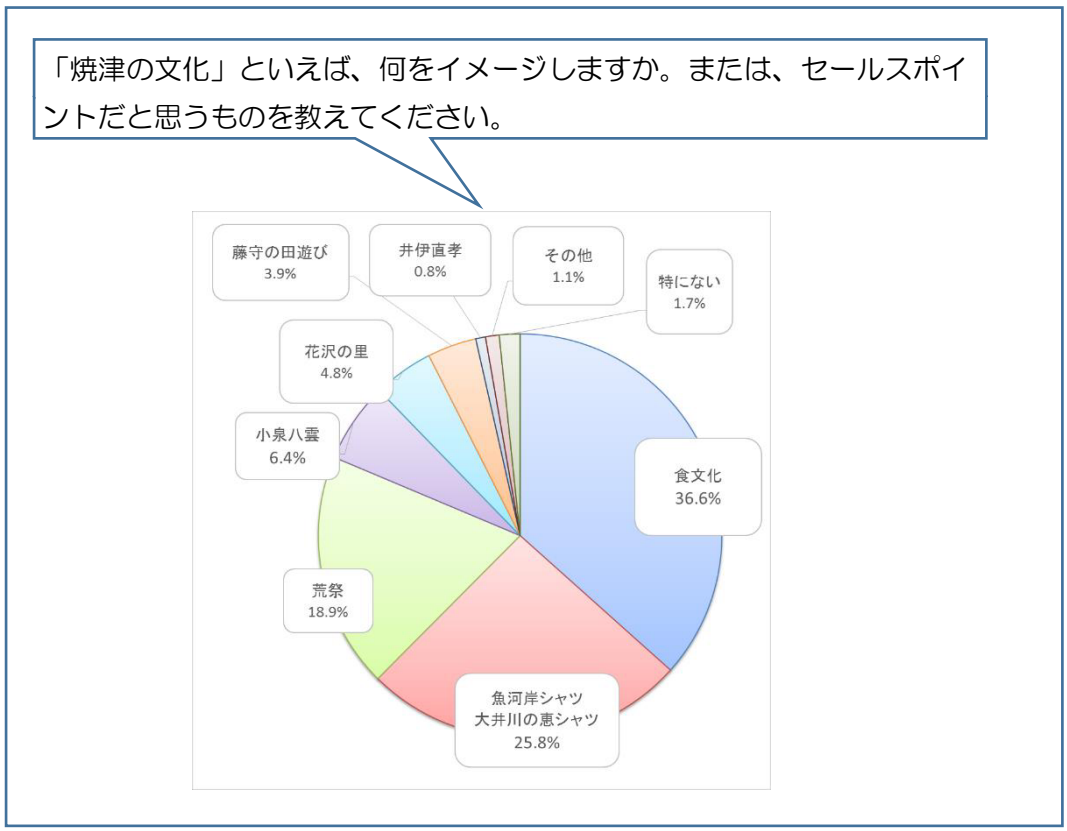


【焼津の文化のセールスポイント、まちに文化芸術を感じるか、文化活動に期待するもの】

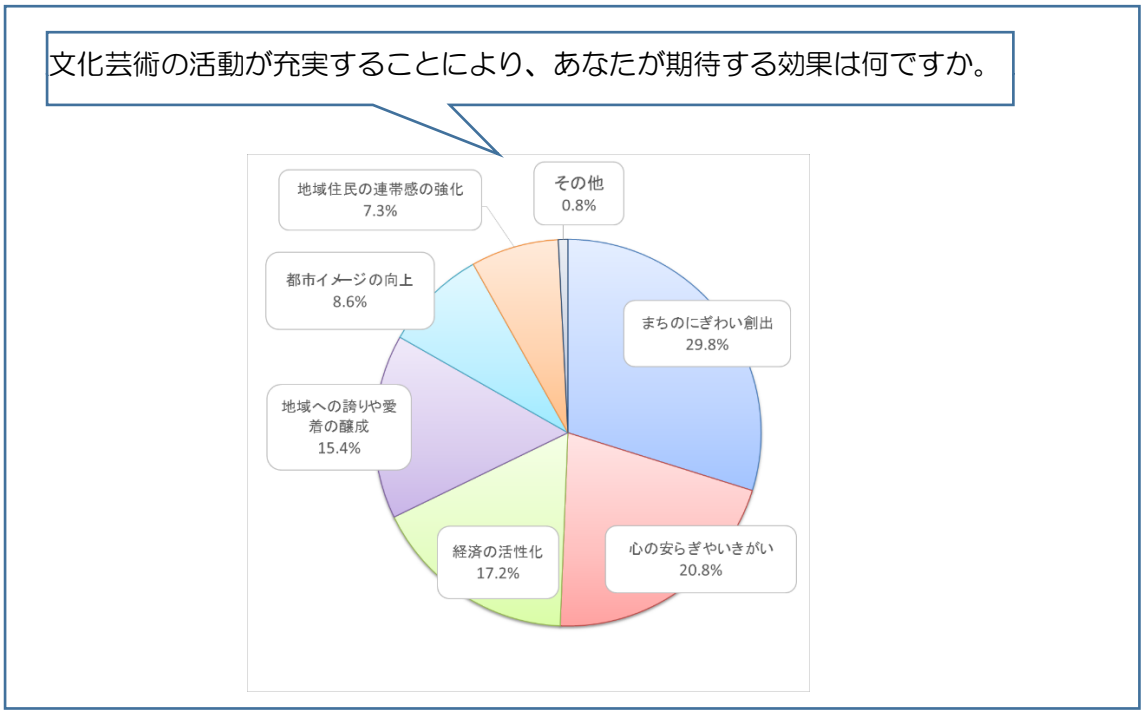
① 文化芸術を感じるかについては、60.9%がどちらともいえない、と回答。



② 特長的な文化について、魚食を中心とした食文化をあげる市民が 36.6%で最も多く、魚河岸シャツ・大井川の恵シャツ（25.8%）、荒祭（18.9%）が続いた。一方で、貴重な文化財を挙げる市民は少ない。



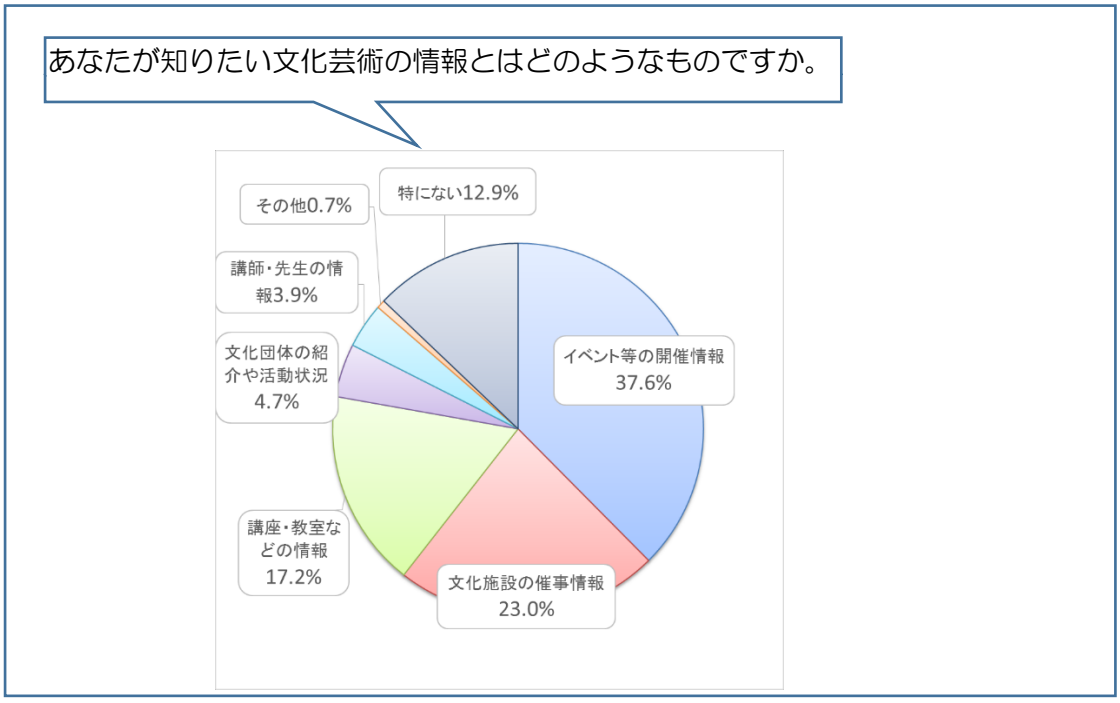
③ 文化に対する期待は、まちのにぎわい創出や経済の活性化を合わせると 47.0%となっている。このほか心の安らぎや生きがいなどの生活の充実、地域への誇りや愛着の醸成等。



【知りたい情報について】

① 市内のイベント情報は各年代で求められている（37.6%）。
次に文化施設の催事情報（23.0%）、講座や教室の開催情報（17.2%）

② 知りたい文化芸術情報について、特にないとの答えが 12.9%。10 代では 51.5%、20 代では 28.0%。



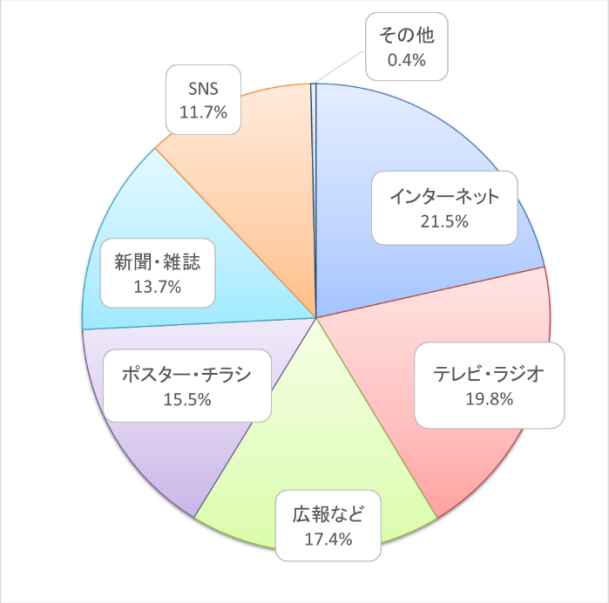
【情報の入手先やその手段で利用しやすいもの】

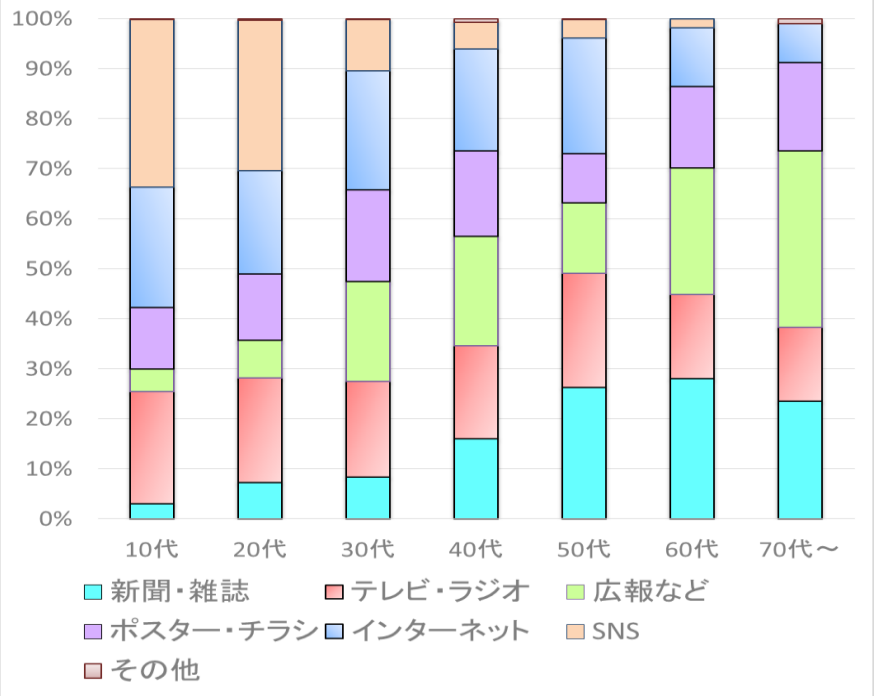
① インターネット 21.5%、テレビ・ラジオ 19.8%、広報など 17.4%、ポスター・チラシ 15.5%、新聞・雑誌 13.7%、SNS11.7%となった。

② 若い世代ほどインターネットや SNS 等などの電子媒体を利用する人が多い。

③ 年代を重ねるにつれて新聞や広報誌等の紙媒体が利用しやすいと感じている。

文化芸術に関する情報の入手の手段は、どういうものが利用しやすいですか。





３　本市における文化に関する主な課題

本市の現状から、次のような課題が浮かび上がりました。

市民の文化活動に関すること

・市民のニーズに応じたさまざまな鑑賞機会の提供
・市民が文化活動の良さを実感できるよう、身近に触れる機会の提供
・市民が文化活動を発表する機会の提供
・鑑賞や発表、体験の機会を通じて、子どもが文化に親しむ機会を充実させる取り組み
・多くの市民に文化に興味を持ってもらうため、子どもの頃から文化への興味や関心を醸成するとともに、世代の切れ目なく、文化に触れる機会の提供
・文化芸術について、更なる振興

文化拠点に関すること

・文化施設の整備
・文化活動の練習や発表の場となる施設の提供

文化財に関すること

・地域に伝わる風習や伝統的な祭り、伝統芸能の継承
・郷土への誇りや愛着の心を育むため、学ぶ機会や情報発信の充実

文化に関わる人材の育成に関すること

・文化活動にたずさわる担い手の育成
・子どもに対する文化教育の充実
・若手、担い手に対する育成・支援の充実

文化を活かした取り組みに関すること

・にぎわい創出や経済の活性化。焼津らしい文化資源の魅力を活用し、市外からの誘客を図り、交流人口の拡大を図る取り組み
・心の安らぎや生きがいなどの生活の充実、地域の誇りや愛着の醸成等、さまざまな効果が期待されている文化の活用

情報発信に関すること

・文化に関する活動や人材、施設などの多様な情報の効果的な発信
・文化に関する情報発信の充実
・市民のニーズを把握するマーケティングによる情報発信